

# 日本思想史

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	金曜4限
日本思想史概論	人と獣の日本思想史	2	引野 亨輔	4	金曜4限
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	3	金曜2限
日本思想史基礎講読	近代文語文による文章を 読む	2	片岡 龍	4	金曜5限
日本思想史各論	女神・女教祖・巫女論Ⅰ	2	片岡 龍	5	月曜3限
日本思想史各論	読み書きの日本思想史	2	引野 亨輔	5	火曜4限
日本思想史各論	女神・女教祖・巫女論Ⅱ	2	片岡 龍	6	月曜3限
日本思想史各論	若さと老いの日本思想史	2	引野 亨輔	6	火曜4限
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	引野 亨輔、片岡 龍	5	水曜3限
日本思想史演習	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	引野 亨輔、片岡 龍	6	水曜3限

**科目名：日本思想史概論**

曜日・講時：金曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：日本思想史入門**

**2・授業の目的と概要：**日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

**3. 学習の到達目標：**日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1
- 第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2
- 第3回：丸山眞男「日本の思想」
- 第4回：加藤周一「雑種文化」
- 第5回：加藤周一、幽霊と語る
- 第6回：加藤周一『日本文学史序説』1
- 第7回：加藤周一『日本文学史序説』2
- 第8回：原爆体験の結晶化（丸山眞男）
- 第9回：戦後知識人の限界と見直し
- 第10回：竹内好と沖縄、思想と運動
- 第11回：沖縄から「戦前」・「戦中」・「戦後」を見る（阿波根昌鴻1）
- 第12回：平和と生命（阿波根昌鴻2）
- 第13回：生活記録運動（鶴見和子1）
- 第14回：水俣病運動（鶴見和子2）
- 第15回：災禍と「生前退位」（平成天皇・皇太后）

**5. 成績評価方法：**レポート [50%] 出席 [50%]

**6. 教科書および参考書：**教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

**7. 授業時間外学習：**小レポート（3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史概論**

**曜日・講時：**金曜 4 限

**セメスター：**4 **単位数：**2

**担当教員：**引野 亨輔

**コード：**LB45401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI201J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**人と獣の日本思想史

**2・授業の目的と概要：**歴史を叙述することは、人類のみに許された特権的な営為とみなされてきた。しかし、近年ではこうした人間中心主義的な見方に対する批判が高まりをみせている。そこで、本授業では、自然や野生動物といった要素を加味することで、日本の歴史を見直し、人間中心主義的な歴史叙述の是非を検討してみたい。

**3. 学習の到達目標：**本授業の到達目標は、自然や野生動物の働きかけに注目して日本の歴史を見直し、偏りのない歴史分析を行えるようになることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 第1回 ガイダンスー歴史叙述の特権性ー
- 第2回 ヨーロッパの人と獣ー動物裁判を事例としてー
- 第3回 日本に動物裁判はあったか？
- 第4回 肉食の日本史①ー獣の肉を好む神々ー
- 第5回 肉食の日本史②ー肉食に対する禁忌意識の高まりー
- 第6回 肉食の日本史③ー禁忌と戦った僧侶たちー
- 第7回 大開発の江戸時代と自然観の激変
- 第8回 生類憐み政策の真意①ー村は鉄砲を手放したか？ー
- 第9回 生類憐み政策の真意②ー農耕と牛馬ー
- 第10回 生類憐み政策の真意③ーなぜ「お犬様」は愛護されたか？ー
- 第11回 鷹狩りの政治史
- 第12回 見世物としての動物
- 第13回 ペットブームの変遷
- 第14回 戦争と動物
- 第15回 まとめ

**5. 成績評価方法：**この授業は期末試験 60%、授業への参加度 20%、小レポート 20%の割合で評価する。

**6. 教科書および参考書：**教科書は特に指定しない。

参考文献は授業中に随時紹介する。

**7. 授業時間外学習：**各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、受講生は適宜自主学習に努めること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史基礎講読**

曜日・講時：金曜 2 限

semester：3 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本の木版本を読む

2・授業の目的と概要：江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に著された通俗的な書物を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的な特徴を理解できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、江戸時代に出版された通俗的な木版本を取り上げ、受講生による読解と発表・討論を通して、史料読解能力の向上を図る。

- 第1回：ガイダンスー江戸時代と商業出版ー
- 第2回：女訓書を読む①ー『女実語教』と居初津奈ー
- 第3回：女訓書を読む②ー『女実語教』と江戸時代の諸思想ー
- 第4回：女訓書を読む③ー『女大学』と貝原益軒ー
- 第5回：女訓書を読む④ー『女大学』と江戸時代の現実ー
- 第6回：古典注釈書を読む①ー『徒然草諺解』と学問入門書ー
- 第7回：古典注釈書を読む②ー『徒然草参考』と仏教的世界観ー
- 第8回：古典注釈書を読む③ー『徒然草抄』と兼好法師ー
- 第9回：古典注釈書を読む④ー『経典余師』と四筆ー
- 第10回：古典注釈書を読む⑤ー『経典余師』と近思録ー
- 第11回：パロディー文学を読む①ー『好色一代男』と井原西鶴ー
- 第12回：パロディー文学を読む②ー『仁勢物語』の笑いー
- 第13回：パロディー文学を読む③ー『尤之双紙』と江戸の教養ー
- 第14回：パロディー文学を読む④ー『修紫田舎源氏』の世界ー
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、1人1回担当する課題発表 40%、各授業中に実施する史料読解チェック 30%、小レポート 30%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。  
全受講生は、課題史料を事前に読解しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：日本思想史基礎講読**

**曜日・講時：**金曜 5 限

**セメスター：**4 **単位数：**2

**担当教員：**片岡 龍

**コード：**LB45501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI208J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**近代文語文による文章を読む

**2・授業の目的と概要：**近代文語文による文章を精読し、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、仙台出身の思想家・新井奥邃（あらい おうすい、1846-1922）の語録を読む。

**3. 学習の到達目標：**日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) オリエンテーション
- 2) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 3) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 4) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 5) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 6) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 7) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 8) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 9) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 10) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 11) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 12) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 13) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 14) 発表（現代語訳・語釈）と対話
- 15) 発表（現代語訳・語釈）と対話

**5. 成績評価方法：**平常点（発表・対話への参加度）[70%] 出席点 [30%]

**6. 教科書および参考書：**教科書～『おうすいポケット 奥邃語録抄』からセレクトしたプリントを配布。参考書～授業時に適宜紹介する。

**7. 授業時間外学習：**毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史各論**

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論 I**

**2・授業の目的と概要：**日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説の分析を通じて、日本文化・思想の特質について考察する。

**3. 学習の到達目標：**思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

**5. 成績評価方法：**平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

**6. 教科書および参考書：**教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

**7. 授業時間外学習：**発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史各論**

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：読み書きの日本思想史**

**2・授業の目的と概要：**読むことや書くことができなければ、人は思想を形成し、また伝承することが、はなはだ困難になるはずである。ところが、読むことも書くことも、現代人にとってあまりに当たり前の行為となっているため、その意義を考える機会は、日常生活のなかにはあまり存在しない。そこで、本授業では、受講生たちに文字学びをめぐる諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する読み・書きの意義について理解を深めてもらう。

**3. 学習の到達目標：**本授業の到達目標は、文字学びをめぐる諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：「識字大国日本」再考①—網野善彦を読み直す—

第3回：「識字大国日本」再考②—青木美智男から学ぶ—

第4回：読むことの多様性—ロジェ・シャルチエを読み直す—

第5回：江戸時代人の読書の実態—長友千代治から学ぶ—

第6回：自学自習のための書物—鈴木俊幸から学ぶ—

第7回：読まない江戸時代人たちの知恵—鈴木理恵から学ぶ—

第8回：近代社会と音読のゆくえ—永嶺重敏から学ぶ—

第9回：書くことの権威性—小川剛生から学ぶ—

第10回：書くという行為と呪術—小池淳一から学ぶ—

第11回：漢文訓読の世界—金文京から学ぶ—

第12回：縦書き・横書きの日本史—屋名池誠から学ぶ—

第13回：漢字亡国論の変遷—安田敏朗から学ぶ—

第14回：電子書籍と読み・書きの未来—

第15回：まとめ

**5. 成績評価方法：**本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

**6. 教科書および参考書：**使用する論文については、授業中に適宜指示する。

**7. 授業時間外学習：**全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史各論**

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論Ⅱ**

**2・授業の目的と概要：**日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説をアジア等と比較して、日本文化・思想の特質について考察する。

**3. 学習の到達目標：**思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

**5. 成績評価方法：**平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

**6. 教科書および参考書：**教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

**7. 授業時間外学習：**発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：日本思想史各論**

曜日・講時：火曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：若さと老いの日本思想史**

**2・授業の目的と概要：**我々は、若者といえば短気な存在であると捉えたり、老人といえば頑固な存在であると捉えたり、若さや老いに固定的な印象を抱きがちである。しかし、そのような捉え方は、時代や地域を超越して不変的なものではない。そこで、本授業では、受講生たちに江戸時代に記された若さや老いに関する諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する物の見方への

理解を深めてもらう。

**3. 学習の到達目標：**本授業の到達目標は、江戸時代に記された諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から江戸時代の若さについて考える

第3回：『小児必用養育草』を読む ①—慈幼観念の誕生—

第4回：『小児必用養育草』を読む ②—出産とケガレ観念—

第5回：『小児必用養育草』を読む ③—生育儀礼の諸相—

第6回：『小児必用養育草』を読む ④—幼児と病—

第7回：『小児必用養育草』を読む ⑤—幼児と学び—

第8回：先行研究から江戸時代の老いについて考える

第9回：『老人必用養草』を読む ①—孝行の論理—

第10回：『老人必用養草』を読む ②—老人と年齢—

第11回：『老人必用養草』を読む ③—養生のすすめ—

第12回：『老人必用養草』を読む ④—老人と肉食—

第13回：『老人必用養草』を読む ⑤—老人と病—

第14回：現代社会における若さと老い

第15回：まとめ

**5. 成績評価方法：**この授業は、担当回の発表 40 %、平常授業への参加度 30 %、小レポート 30%で評価する。

**6. 教科書および参考書：**使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

**7. 授業時間外学習：**発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。  
また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前に読んでおくこと。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

科目名：日本思想史演習

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LB53304, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

3. 学習の到達目標：卒業論文のテーマの決定

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

5. 成績評価方法：レポート [50%] 平常点 [50%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは 1 週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：日本思想史演習**

**曜日・講時：**水曜 3 限

**セメスター：**6 **単位数：**2

**担当教員：**引野 亨輔、片岡 龍

**コード：**LB63302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI308J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**日本思想史の諸問題Ⅱ

**2・授業の目的と概要：**前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

**3. 学習の到達目標：**卒業論文作成の準備と研究内容の深化

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

**5. 成績評価方法：**レポート [50%] 平常点 [50%]

**6. 教科書および参考書：**佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

**7. 授業時間外学習：**プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**